学校だより

プラタナス

令和２年６月１２日(金)
No.12
市川市立市川小学校
校長　　蜂須賀　久幸
https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho

やっちゃえ、市川小！　やっちゃえ、市川っ子！

日本において、ペットボトル飲料は生活に欠かせないものとしての地位を築いています。炭酸飲料からスポーツ飲料、コーヒーや水、緑茶、麦茶など様々です。2019 年度の清涼飲料水売り上げトップ 10 を調査したデータによると、オロナミンＣ、コカ・コーラに続く第 3 位が緑茶でした。その他の調査でも、トップ 50 の３～４割はお茶類です。このように、今でこそ缶やペットボトルの緑茶飲料等がたくさん販売されるようになりましたが、好きな時に楽しむことができるようになったのはそんなに昔のことではありません。

私にとってのお茶は、「家庭や職場で、急須に湯を注いで入れるもの」という生活が染みついていましたから、30 数年前に緑茶飲料が発売されたときには、正直「こんなものを買う人がいるのか？」と訝しく思ったものですし、一体どれだけの人が大ヒット商品になることを予想していたでしょう。でも、固定観念にとらわれずに、最初の一歩を踏み出した人がいたからこそ恩恵を被っていることがたくさんあるのです。

話は変わりますが、2025 年に開催される「万国博覧会」の開催地が大阪に決まったのは、もう 2 年も前の話です。前回、大阪で万博が行われたのは 1970 年ですから、55 年後の開催となるわけです。当時、私は小学 3 年生でしたから、岡本太郎氏の「太陽の塔」などよく覚えていますし、見に行った友達が各パビリオンのすごさを熱く語っていた様子も印象に残っています。この時は、「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ、77 か国が参加する、戦後、高度経済成長を成し遂げてアメリカに次ぐ経済大国になった日本を象徴するイベントという位置づけでした。日本においては、大阪万博より先に開催された東京オリンピック(1964 年)以来の国家プロジェクトだったわけです。

このように時代は激しく動いています。10 年先すら予想できない難しい時代に今の子供たちは生きて、そして活躍していくのです。新型コロナウイルス感染症だって誰が予想したでしょうか。ましてや、この影響でオリンピックが延期される、春夏高校野球が中止になるなど、まさに予測不可能だったはずです。

時流激しい中だからこそ、子供たち自身が流れを創り出す強い意志を持ってほしいと強く願います。「ありえない」と放り出してしまうか、新しいことに挑戦してみるか、分岐点に立った時、「それって、面白いかもしれない」「できるところまでやってみよう」という考えが持てる人になってほしいと思います。

もしかすると、未来の「ノーベル○○賞」「○○栄誉賞」受賞者を市川小から輩出することができるかもしれません。毎日、幾度も遭遇している分岐点とその数だけある選択。これらを大事にするとともに、挑戦してみようとする意識次第で、秘めたる力が開花につながるかもしれません。

先生方にも、某自動車会社のＣＭをもじって、「やっちゃえ、市川小！」のキャッチフレーズを掲げ、良いと思うことにどんどんチャレンジ（行動）してもらうようにお願いしているところです。

プラタナスは何でも知っている

今年入学の一年生が在学中に、市川小学校は創立百五十周年を迎えます。歴史ある本校ですが、だからこそ知らないことがたくさんあります。着任して二か月目にして、初めて小体育館に足を踏み入れましたし、校章の由来が知りたくて、金庫にしまわれた資料を半日かけて読み返してみました。

そこで、保護者の方も子供も一緒に考えられるように、市川小の歴史を「○×クイズ」にしてみました。でも校章の由来は未だ不明です。

【第一問】市川小の誕生日は、大正七年六月二十日である。

※民家を借りて、男子56名、女子27名、先生3名でスタート

【第二問】千葉県で初めて鉄道が開通した時、始発駅は総武線市川駅である。

※明治27年7月20日、佐倉駅までの区間で開通

【第三問】昭和23年ころ、児童数はおよそ三千人もいた。

※児童数が多かったので、早組・遅組に分かれて二部授業を実施

【第四問】ひまわり学級は、蜂須賀校長が生まれる前からあった。

【第五問】今の講堂は、58歳になる。

【第六問】吹奏楽部は、音楽コンクールで日本一になったことがある。

【第七問】屋上には、人工芝が敷き詰められていた時がある。

【第八問】校庭のプラタナスは、台風で倒れたが植え直されている。

《正解》8問とも○で「○」です。

昭和六年の台風は大津波どころか、行徳の塩田が全滅したといい、市川小の校舎も倒壊したといいます。児童数は、一番多い時で約三千百人という記録があり、現在は約六百八十人。ひまわり学級の開級は昭和三十年、現在の体育館は昭和三十七年落成。プラタナスは昭和二十四年のキティ台風で倒れましたが、同窓生により植え直されました。どうでしたか？

あいさつをすること＝『心を開いた』という合図

市内のある中学校の先生が、以前、地域の会合でこう言いました。「皆さんが学校に来ていただいた際には、生徒たちは120%のあいさつでお迎えします」と。

市川小学校ではどうでしょうか？昨年度12月に実施した保護者アンケートの設問「お子さんは、友達や近所の人などに、自分から進んであいさつをしている」に対して、肯定的な回答は約76%にとどまりました。数値目標を示すなら「めざせ85%！」ですが、思うほど簡単なことではありません。

ある研修会で、「あいさつは学習でも生活でも基本であり、学ぶ姿勢を知るうえでの基準ともなる」という話がありました。さらに、「あいさつをするということは、『あなたに心を開きました』というメッセージであり、『あなたという存在を認めます』『コミュニケーションしたいです』『あなたを大切に思います』『あなたの要望に応える準備ができました』などという合図である」ともいいます。逆に言えば、あいさつがないのは「心を閉ざし、存在すら認められていない」と捉えられます。これは結構淋しいことです。

以上はあいさつに関する考え方の一つですが、子供たちには「あいさつをする目的」を考え、やらされるあいさつから脱却して、心開いて「言葉のキャッチボール」を楽しんでほしいと思います。